

メディカルダイエット・メタボ対策

● ボグリボース・ダイエット (αグルコシダーゼ阻害薬) 3000円/月 (1日3回1回1錠食前)

腸で糖の分解を担う二糖類水解酵素 (α-グルコシダーゼ) の働きを阻害し、糖質の消化・吸収を遅延させることにより食後の過血糖を改善します。元々糖尿病患者さんの食後高血糖を防ぐために使われている薬です。食事前に飲むことで、酵素の働きを抑え炭水化物の吸収を抑制し、ダイエットに必要な低炭水化物状態に導きやすくします。

● ダイエットピル (SGLT-2阻害薬) 4500円/10粒

血中に含まれる糖を尿と一緒に体外に排出するSGLT 2 阻害薬という薬剤です。糖尿病の新しいお薬で、一日1回の内服で、腎臓から1日あたり約300-400Kcalの糖が排出され、ダイエット効果を発揮します。継続して内服いただくことは別に、食べすぎた時のレスキューとして使用も可能です。

● GLP-1ダイエット 28,000円/月

痩せるホルモンのGLP-1は、元々、ヒトの体内に存在するホルモンです。GLP-1とは、食事による刺激によって小腸から分泌され、β細胞にあるGLP-1受容体と結合して、インスリン分泌を増加させる働きをしています。肥満の人では、食後の血中GLP-1濃度が上がりにくく、痩せると正常値に近づきます。つまり、GLP-1の働きによって、「太っている人が、太りにくく」「痩せている人は、太りにくく」になっていくのです。このGLP-1は、アメリカ・ヨーロッパでは、肥満治療薬として承認されています。当院では、患者様の生活習慣に合わせて2種類の治療方法をご提案しています。毎日の使用感によって量を調整できる「ビクトーザ」週一回の注射でOK「トルリシティ」

● マジンドール・ダイエット (食欲抑制) 28,000円/月

マジンドールという成分の内服薬は、食欲中枢に直接作用して食欲を抑制します。また満腹中枢を刺激することにより、少ない食事量で満腹感を得ることができ、空腹感を少なくします。BMI 35以上の病的肥満の患者様には保険適応となっているお薬です。我慢して食事量を減らすダイエット方法ではございませんので、リバウンドしにくい特徴があります。サノレックスは長期使用ができません。3ヶ月継続して使用した場合は、いったん1ヶ月以上の休薬期間が必要です。

● 漢方ダイエット (処方箋で薬局受け取り) 5000円/診察料 (最大90日分処方可)

体質にあわせた漢方を処方します。これまでダイエットがうまくいかなかった、という方は、一度体質改善についてご相談ください。

- ・防風通聖散 (ぼうふうつうしょうさん) : 防風通聖散はおへそのあたりがポッコリと前に突き出ている人
- ・防己黄耆湯 (ぼういおうぎとう) : 下腹の肉がブヨブヨしていて下に垂れている人
- ・当帰芍薬散 (とうきしゃくやくさん) : 倦怠感があり、むくみやすい体質の方

など

メディカル・ホームケア

● 美肌・美白・美容

各2000円/月

- ・トラネキサム酸（90錠）：皮膚のしみを薄くする効果があります。肝斑のコントロールにも有効です。
- ・ビタミンC（90錠）：皮膚のターンオーバーを正常化させ色素沈着を予防する効果があります。
- ・ビタミンE（90錠）：ユベラは肌の代謝を良くしてターンオーバーを促進しシミのできにくい肌を作り上げます。
- ・ハイチオール（90錠）：過剰なメラニン生成を抑制、メラニンを排出促進させることで、肌のトーンアップに効果があります。

疲労回復・パフォーマンス向上・ミトコンドリア機能改善

● リーバクト（BCAA）

4500円/10包

BCAAは必須アミノ酸です。BCAAには、成長ホルモンの分泌を促すとされています。筋トレの効率を上げる、代謝をあげる、疲労回復、集中力アップ、ダイエットなど、様々なシーンで効果的な栄養素です。毎日服用していただいても、筋トレ前など所要所で使用していただいてもOKです。

● カルニチン

5500円/月（90錠）

カルニチンは、ミトコンドリア機能を改善させ、脂肪代謝をアップさせます。また、近年の研究によって、カルニチンは、加齢による代謝機能の低下およびアルツハイマー病などの老化現象に対して、抑制効果があるということがわかってきました。

● グルタチオン

3000円/月（90錠）

グルタチオンは抗酸化作用と解毒作用により体内の活性酸素を除去します。デトックス、エイジングケア効果が期待できます。お薬を多剤服用されている方、食品の農薬が気になる方、アルコール多飲の方等にオススメです。

トータルエイジングケア

● 成長ホルモン補充療法

75,000円/月（目安）

成長ホルモンは、身体の老化を防ぎ、免疫機能や若さを維持するのに必要なホルモンです。しかし、成長ホルモンは思春期をピークに、30～40代ではその半分以下になり、50代ではピーク時の1/4まで減少します。その成長ホルモンを外部から補うことで、加齢とともに起きる体力や代謝の低下、肌のしわの増加などを予防する効果が期待できます。詳しくは「成長ホルモン補充療法」をご参照ください。